

四国学院大学

# 高大連携支援 プログラム2026



大学体験プログラム

合宿プログラム

P T A ・ 教員研修プログラム

出張講義プログラム

## 大学体験プログラム

進路を考える高校生にとって、大学でどのような学びが行われているのかを知り、キャンパスの雰囲気を実際に体感することは、進路選択を考える上で重要な要素です。

本学では、高校生の皆さんが大学生活を具体的にイメージできるよう、講義体験、施設見学、大学概要ガイダンスなどを組み合わせたプログラムをご用意しています。

### POINT

希望に合わせたプログラム内容をお選びいただけます。

- ・教育、福祉、スポーツ、心理学、保育、国際文化等に特化したプログラム
- ・本学ノトスタジオで行われる演劇公演の観劇に合わせたプログラム
- ・硬式野球部、サッカー部、陸上競技部に関連するプログラム

本学送迎バス利用可能（無料）

学食体験可能 ※実施時期によって学食体験ができない場合もございます。

少人数でも実施可能

大学の講義体験やワークショップは、入学試験『総合型選抜』に利用できます。  
※受験年度に受けた講義体験に限りらせていただきます。

### プログラム例

時間	スポーツ特化 Ver.	演劇特化 Ver.
10:00～10:30	大学の概要説明	大学の概要説明
10:30～11:30	講義体験（スポーツ関連） 体組成測定	演劇ワークショップ
11:30～12:30	学食体験	学食体験
12:30～13:30	施設見学	施設見学や演劇稽古見学、 演劇公演観劇

## 合宿プログラム

本学の施設を無償でご利用いただけます。

※宿泊費・食費は別途必要

宿泊を伴う場合は、キャンパス内の同窓会館「ロゴス館」をご利用いただけます。

長時間集中して学習に取り組む勉強合宿や、県内外から集まり練習を行う運動部の合宿など、さまざまな目的でご活用いただけます。

また、宿泊を伴わない施設のみの利用も可能です。

※大学の行事や学生の授業・クラブ活動に支障のない日時に限ります。

### POINT

施設の使用料無料

本学送迎バス利用可能（無料）

宿泊施設の利用可能 ※宿泊費、食費は別途必要。

スポーツ、演劇等の合宿にも利用可能

学食体験可能 ※時期によって学食体験ができない場合もございます。

## P T A・教員研修プログラム

保護者や高校教員の方にも本学を知っていただくことで、高校生の進路選択や進路指導にお役立ていただきたいと考えております。

本学の学びや施設、キャンパスの雰囲気を実際にご覧いただく機会として、高校生に限らず、保護者や高校教員の方のみでの大学見学も実施しています。

### POINT

保護者または教員のみでの参加でも実施可能

本学送迎バス利用可能（無料）

教育、福祉、スポーツなどに特化したプログラムも実施可能

学食体験可能 ※時期によって学食体験ができない場合もございます。

プログラム例

時間	プログラム
10:00～10:30	大学の概要説明
10:30～11:30	講義体験
12:30～13:30	施設見学

## 出張講義プログラム

高校生が、自分の興味のある分野が将来どのようにつながるのかを考え、大学での学びを具体的にイメージできるよう、本学では出張講義を実施しています。

本学教員が直接高校へお伺いし、大学の講義を体験できる内容を実施しますので、「総合的な探究の時間」をはじめ、進路学習やキャリア教育の一環としてぜひご活用ください。

### POINT

講師料および講師交通費無料

多数の分野に対応したプログラムをご用意

(教育、福祉、スポーツ、国際文化、社会学、観光、地域歴史など)

講義内容についてはご相談可能

講義の前後に大学紹介の追加可能

**Q** 希望する講義が決まらない

**A** ご希望の「分野」を伺い、本学からご提案いたします。

**Q** 出張講義プログラムにない授業を依頼したい

**A** 内容をお伺いし、類似のプログラムのご紹介や、希望の内容を講義できる教員の派遣を検討いたします。

## 災害と文学

助教 / 大石 富美

地震や感染症などの災害は、人々の生き方や社会のあり方を大きく揺さぶってきました。近現代文学を読みながら、人はなぜ災害を語るのか、文学は何を伝えようとするのかを考えます。文学研究の方法を紹介しながら、社会と向き合う学びの一端を体験してもらいます。

## 日本語って不思議！

教授 / 齊藤 学

外国人に、「カ行・サ行には濁音（ガ行・ザ行）があるのに、ナ行・マ行にはどうして濁音がないの？」って聞かれたら何と答えますか？『あげる』は give、『もらう』は get、『くれる』は何？』って聞かれたらどうでしょう？この講義では、私達がいつも何気なく話している日本語の不思議を共に探っていきます。

「東アジア史」から考える  
「日本人」と「日本文化」

教授 / 金 泰勲

「日本人」とは誰ですか。「日本文化」とは何ですか。自明なもののように思われるこの問いを「東アジア史」の観点から考えてみましょう。この講義では、文化や伝統の普遍と特殊の問題について、縦の時間軸と横の空間軸で眺めるアイデンティティの多様性という観点から学習します。

## 身近な地域を知る

准教授 / 金子 直樹

身近な地域について、その人文・自然的特徴を考えたいと思います。普段生活している場所の状態や成り立ちなどを確認し、社会科で学ぶ内容との関連性や地域の課題などについて知ってもらいたいです。具体的には、地域社会に関係する人口や産業など、自然災害に関わる地形や気候などの特徴について、地域に適した内容を紹介していきます。

## 愉快的翻訳論

教授 / 赤井 勝哉

"Yes, captain!" この簡単な英文を日本語に訳せますか？「はい、船長」？「了解、機長」？「いいわよ、キャプテン」かもしれませんよ。「へい、ダンナ」の可能性もあるし、「違うぞ、大佐」もないとは言えない。訳文は前後関係（文脈）の中でしか決められないものです。文脈の大切さを中心に、AIについても視野に入れつつ、翻訳について楽しく語ります。

大学での英語の講義を  
体験してみよう

教授 / 中澤 加代

大学の英語の授業は高校以上に難しいのでしょうか、それとも楽しいのでしょうか。実践的な英語力・コミュニケーション能力を身につけることを目指している大学の英語の授業をぜひ体験してみてください。

## The Power of Vocabulary

助教 / エセックス マイケル

Although many English language students focus on learning English grammar, vocabulary is even more important for many different language purposes. How much vocabulary is necessary for doing various things in English? It 's probably less than you think! This class will focus on the usefulness of vocabulary and vocabulary learning strategies. If there is time, we will finish with a vocabulary game.

なぜ戦争が起こるのか？  
ガザ虐殺とウクライナ戦争、  
そして日本は？

教授 / 井上 雅義

なぜイスラエルは「ガザ虐殺」を止めないのか？なぜアメリカはイスラエルに軍事支援をするのか？アメリカとイスラエルが国連と対立するワケ。アメリカの若者たちがイスラエルを批判する理由は？中東情勢やウクライナ戦争など、戦争の報道に危機感を覚えるかも知れません。その危機は日本に及ぶのでしょうか。日本は防衛費を倍増して軍事力を増強すれば“安全”なのでしょうか。日本が戦争に巻き込まれないために必要なことを考えます。

【使用機材】PCのHDMI接続できるプロジェクターかモニター（PCは持参します）。

## 文学が培う宗教リテラシー / 宗教的センス

准教授 / ネルソン ジョシュア

宗教リテラシー／宗教的センスとは何か。現代社会で生き抜くために必要な感性です。宗教との向き合い方や信仰を持つ人たちとどう関わるかについて考える力を身につけていくことを目的としています。本講義では、戦後に活躍したカトリック作家の遠藤周作の作品群を取り上げます。『沈黙』や『深い河』などの代表作が扱う諸課題を通して、知識だけでは説明がつかない「宗教」の謎・おもしろさに気づくことができるかもしれません。

【使用機器】(パワーポイント使用) PC、プロジェクター

## 自尊感情が「低い」といけないのか？

教授 / 会沢 勲

21世紀に入ると、「自尊感情」の波が学校にまるで神話やカルトのように押し寄せます。先生方も親御さんも子どもたちも、自尊感情が低い・高いと大騒ぎしています。そもそも "self-esteem" がそんなに個人の状態を言い当てるほど意味のある説明変数と言えるのか。そういう議論を抜きにして前に進めないと思いませんか。

## 色彩の世界

教授 / 松村 武夫

造形芸術の基本的な要素である「色」は、幼稚園や小学校における造形教育においても基本的で重要な要素となります。本講義では、身近な物品を例にして様々な配色の効果やその表情を紹介し、「色」についての理解を深めます。

## 教員養成の仕組み

教授 / 元井 一郎

現在の教育職員免許法の構成を中心に、教員免許制度の構造あるいは教員免許状の種類などを簡潔に解説します。また、併せて現在の教員採用の構造や特徴、および現在求められている教員像などについても簡単にお話しします。

## どうして勉強するのか？

教授 / 六車 治

「なぜ、こんな役に立ちそうもない知識を覚えるのか？」「どうしてだれもが勉強しなければいけないのか？」だれもが一度は抱く学校や勉強への疑問に対し、教育学の視点で考察します。

あわせて、これからの新しい時代を生きるための勉強の仕方をみんなで考えてみましょう。

## グループ学習で重要なこと - 文化歴史的活動理論から考える -

教授 / 森川 由美

AIに代替されない仕事の特徴として、人間同士でコミュニケーションをとりながら協同で進めることを挙げることができます。そのため、そうした力を伸ばすために、学校の授業でもグループ学習が増えてきています。そこで、グループ学習において重要なことを、文化歴史的理論を用いてみていきましょう。

## 歴史像を組み立てる

助教 / 松本 智也

歴史は過去の出来事ですが、私たちは過去の出来事それ自体は直接観察できません。ではどのようにしたら過去の歴史を知ることができるのでしょうか。私たちは過去の人間が残した何らかの活動の痕跡である「史料」に基づいて歴史像を組み立てて、それによって過去の出来事に迫ることができます。この講義では実際に史料を読みながら、歴史を探究していきましょう。

## 「なぜ」を 徹底的に探求する哲学

助教 / 小山田 圭一

哲学は驚きから始まる、と言われます。私たちが抱く驚きは、なぜそうなるのかの根拠や原因がわからないものごとに対してあるものであり、そこで同時に生じる根拠や原因への好奇心こそが人を哲学的探求へと向かわせるのです。つまり哲学は、ものごとの根拠や原因を知りたくなる好奇心に基づく探求のことなのです。この講義では、そうした哲学的探求の典型的な例として、存在に関する問題を取り上げてわかりやすく紹介します。

## 地域福祉を考える

教授 / 石井 洗二

いま、地域福祉への関心、期待が高まっています。この講義では、地域福祉とは何か、なぜいま注目されているのか、私たちにできることは何か、などについて、自分たちが暮らしている地域の課題として、一緒に考えてみたいと思います。

## 私たちの暮らしと社会保障

教授 / 李 静淑

公的年金は、老後だけでなく、若い時にも受け取ることができます。ホント！？と、疑問に思われるかもしれません。このように、社会保障は高齢者だけが関係するものではなく、全ての国民が対象となっています。そこで、「私たちの暮らしと社会保障」というテーマで一緒に考えてみましょう。

北欧フィンランドの  
社会福祉と日本

教授 / 片岡 信之

北欧のフィンランドは福祉先進国として知られていますが、その意味は福祉制度だけを見てもわかりません。社会福祉制度は、あくまで家族・政治・文化などを含めた社会全体の一環としてあります。フィンランドの社会福祉現場を訪ねた際の写真を交えながら、日本と比較しつつ、高福祉を可能にしている社会の仕組みを解き明かします。

## 心のセルフケア

教授 / 山口 孔丹子

心の健康を保つためには、筋弛緩法、呼吸法、リラクゼーションなど様々な方法があります。講義では、そのうちのいくつかの方法を体験します。また、心の健康のために大切な要素についてディスカッションをして、ともに学びましょう。

## 援助するってどういうこと？

教授 / 西谷 清美

イギリスの慈善活動からはじまり、アメリカにおいて体系化されたソーシャルワーク（個別相談援助）を概観しながら、主に援助者の視点や価値観、具体的な援助技法等について、実践例を用いて分かりやすく解説します。

子どもを虐待から守るために  
できること

教授 / 北川 裕美子

みなさんが将来親になった時、育児に関わることになった時、どのように子どもとかわれば良いのか？実際に地域で保護者や支援者に実践されている親子関係支援プログラムを体験し、子どもたちを虐待から守るためにできることは何か考えます。

【使用機器】（パワーポイント使用）PC、プロジェクター、DVD

## かかわりを紐解く

- 援助・支援の仕組みと考え方 -

教授 / 富島 喜揮

ソーシャルワークにおける援助・支援（以下、援助）は、当事者を中心に展開することが原則とされています。もちろん、援助者にも援助をするうえで主体的であることが求められます。この当事者・援助者の二者間の関係を相互主体的な関係といい、特に精神科ソーシャルワークでは“かかわり”として表現されることが一般的です。講義では、具体的な事例をもとに、精神科ソーシャルワークにおける“かかわり”について解説します。

「現代版桃太郎」の物語を  
読み解く

教授 / 西谷 清美

日本の代表的な昔話「桃太郎」を現代版にアレンジし、社会福祉とりわけ児童福祉、高齢者福祉、地域福祉の観点から物語を読み解いていきます。そして、そこに見えてきた社会福祉援助のあり方や基本的な考え方について解説します。

スクールソーシャルワーク  
～学校で子どもを支援するために～

教授 / 浜田 知美

現在の学校には、不登校、いじめ、非行、リストカット等、様々な形で支援を必要としている子どもがいます。スクールソーシャルワークとは簡単に言うと、学校のなかで様々な困難に直面している子どもたちを、子どもたちの側に立って福祉の視点で支える活動です。その特徴について事例を用いながらわかりやすく説明します。

「子どもの権利」として  
位置づけられる課題を考える  
～子ども福祉を学ぶ意義～

教授 / 野崎 晃広

皆さんは、子どもの権利条約をご存じでしょうか。子どもの権利条約は、国連により1989年に採択され、日本は1994年に、この条約を批准しました。子どもの権利条約で言う子どもの権利とは、子どもとして生きる皆さん(18歳未満)にとって、どのような意義をもたらしているのでしょうか。

現在18歳未満である子どもや若者である皆さんにとって、自らを取り巻く生活上の問題の中には、子どもの権利として位置づけられるべき問題が横たわっています。

一方で、子どもの存在を守る立場にあるのは、家庭をはじめ地域で暮らすすべての人々であり、子どもに携わる専門職者(福祉、教育、医療等)などもいます。子どもの存在を守る大人は、どのような役割を担うことが求められているのでしょうか。この講義では、権利の保有者である子どもとしての立場、今後大人として生きる若者としての立場、それぞれの立場について、社会の一員として、考えるべき課題を学んでいただきます。具体的には、全体学習後に、グループに分かれて、課題に基づきディスカッション、発表などを通じて学ぶ機会を提供します。なお、学校や学年などの状況に応じてアレンジも致します。

---

心の科学

助教 / 森川 貴嗣

心理学とは何なのでしょう。人の心はどうやってしらべるのでしょうか。心理学のエッセンスに触れます。

【必要な機材】 プロジェクター、スクリーン、HDMI ケーブル

---

子どもの貧困と社会的孤立  
： 支援の現状と課題

教授 / 辰巳 裕子

「子ども食堂」「フードドライブ」「学習支援」——これらの言葉を一度は見聞きしたことがあるのではないのでしょうか。本講義では、これらの取り組みの意義を理解しながら、地域社会全体で子どもの成長を支える取り組みについて考えていきます。

ソーシャルキャピタル  
からみる現代社会の変容  
教授 / 竹本 達也

人間関係資本などとも称される様々な様態の「つながり」にスポットを当て、その社会的意味や歴史的変遷を概観しつつ、私たちが生きている社会の実情をひもといていきます。

テキストとして  
新聞記事をよむ  
教授 / 竹本 達也

典型的な活字媒体である新聞は、ネットやSNSが普及した今日なお重要な社会的位置を占めています。しかしながら、いわゆる「活字離れ」といわれる現象の中でその位置が大きく変わりつつあるようにも思えます。そこでこの機会に、ごく基本的な読解の技法をいくつかみていきたいと思います。

学力が低いのは  
努力不足のせい？  
- 学力を社会学的視点から見る -  
教授 / 尾場瀬 一郎

これまで学力は、努力の量と比例すると考えられてきた / 考えられている。ところが社会学的には、子どもの学力は家庭の経済力や文化的環境とより強い相関関係があることがわかっています。今回、子どもの学力が家庭の経済力等とどのように繋がっているのか、データを基にして考えてみましょう。

メディアを学問する  
准教授 / 福永 健一

私たちの身の回りには、多種多様なメディアがあります。それらのメディアは、いつからあって、なぜそのような様態として存在しているのでしょうか。また、メディアは私たちの生活様式や考え方をどのように規定しているのでしょうか。この講義では、メディアについて、社会学やメディア論という学問から考えていきます。

日本の社会を異文化からの  
視点で見よう  
准教授 / 山下 大輔

「日本の普通」は、世界では「異常」かもしれない？  
外国人住民が増え続ける今、私たちに求められているのは、単なる語学力ではなく「当たり前を疑う眼差し」です。この講義では多次元文化モデルという強力なツールを用い、日本社会の深層を可視化。ワークショップ形式で、異文化の視点から自分たちを捉え直す体験を共有します。共生社会を生き抜くための「社会学的想像力」を一緒に養いましょう。

フード・ツーリズム  
准教授 / 山中 雅大

日本における観光やレジャーの発展には「食文化」や「食環境」の繁栄が背景にありました。本講義では、「外食」の変化や受容の変遷を視点として、どのように「食の旅＝フード・ツーリズム」が誕生し現在に至ったのかを、かいつまんでご紹介します。

アスリートの限界突破から、子どもの成長、そして高齢者の健康まで。健康・スポーツ科学のフィールドは、人生のあらゆるステージに繋がっています。これまでの「動く楽しさ」を、次は「人を支える科学」に変えてみませんか？最先端のデータが、根性論では届かなかった答えを教えてください。身体という最高のメカニズムを解き明かし、社会の課題を解決する。健康・スポーツ科学は、そのような可能性がいっぱいの分野です。

今、高校生のみなさんは、自分の「好き」や「部活動の経験」がどうやって将来の仕事や社会貢献に繋がるのか、探し求めている時期だと思います。健康・スポーツ科学は、「生理学」「栄養学」「心理学」「経営学」など、さまざまな分野に広がります。みなさんが求めている何かが、健康・スポーツ科学分野の中で、発見できるように、四国学院大学の出張講義プログラムをご利用ください。

みなさまからのお問い合わせを、心からお待ちしております。

## なるほど！ スポーツトレーニング 教授 / 片山 昭彦

みなさんが日ごろから取り組まれているスポーツトレーニング。なにげなく行っているストレッチにも大切な意味があります。そんなスポーツトレーニングの世界を、探してみたいと思います。ひょっとすると、スポーツパフォーマンスアップにつながるヒントを、見つけ出せるかもしれません。

面白く、楽しく、いっしょに学んでいきましょう。そして、健康・スポーツ科学分野により興味を持ってください。

## スポーツ文化論 教授 / 近藤 剛

スポーツはいいもの！スポーツは素晴らしい！高校生の多くは、スポーツに対してこのような感情を持っているのではないのでしょうか。でも、それは本当ですか？スポーツをしているが故に感じる、つらい思いや経験もあるのではないのでしょうか……。実は、日本のスポーツ界は今もなお多くの問題を抱えています。こうした問題を抱えてしまう背景を学び、よりよい日本のスポーツ文化について考えていきましょう。

## そもそもスポーツとは？ これからのスポーツは？ 教授 / 逢坂 十美

スポーツは今や、私たちの生活のあらゆる場面で登場するようになりました。ですが、そもそもスポーツとはどのようなものなのでしょう。Electric Sports(eスポーツ)は野球やサッカーなどと同じスポーツでしょうか、違うのでしょうか？これからスポーツはどのように変わっていくのでしょうか？この授業ではスポーツについて「ある問い」から出発し、パラ・スポーツにも触れ、今後のスポーツの姿を想像してみたいと思います。

## プロスポーツで学ぶ チームワークと自己成長 准教授 / 中野 彰

プロスポーツは単に試合を行う組織ではなく、株主・スポンサー・チーム・ファンなど、多くの役割が連携する経営組織であり、収益や人材育成、データ活用などが意思決定に直結します。講義では、事例を交えながら、限られた予算で選手育成と勝利のバランスの取り方を学びます。また、チーム運営からリーダーシップや自己成長の考え方も紹介。グループワークを通して、自分ならどのようにチームを強く、会社を大きくさせるかを検討し、組織での役割意識を身につけることを目的とします。

## 体験してみよう！ パラスポーツ入門 准教授 / 中野 彰

障がい者スポーツの体験を通して多様性の理解と共生社会について主体的に考える力を育むことを目的とした体験型の講座です。世界的なスポーツ大会であるパラリンピックの紹介の他、パラスポーツの意義や歴史的背景に触れながら、「どうすればできるか」を探る視点を検討します。チームワークが求められるボッチャを中心に活動を行い、合理的配慮や役割分担、信頼関係の大切さについて議論します。

## 体の使い方で動きは 変わる？ 助教 / 斎藤 遥

ジャンプや腕振り、姿勢などの簡単な体験を通して、体の使い方によって動きやすさや運動能力が変わることを実感してもらいます。「足が速い人は才能なのか？」「なぜフォームが大事なのか？」といった疑問を取り上げながら、日常生活や部活動にも活かせる体の使い方のコツを紹介します。

スポーツが得意な人だけでなく、運動が苦手な人にも役立つ内容とし、大学で学ぶスポーツ科学の考え方をお伝えします。

## 演劇ワークショップ

本学では、感受性や表現力を磨き、社会で求められるコミュニケーション能力を育むことを目的に、演劇の手法を取り入れたワークショップ形式の講義を実施しています。

この講義は、プロの俳優を目指す学生だけでなく、教員・保育士・社会福祉士などを志す学生にとっても、実践的なコミュニケーション力を養う機会となっています。また、一般企業への就職を目指す学生にとっても、面接や社会に出てから役立つ表現力を身につける機会となっています。高校生の皆さんにも、こうした講義を体験していただくことで、感受性や表現力を養うきっかけとしていただければと考えています。

講義の具体的な内容につきましてはご相談に応じますので、お気軽にお問い合わせください。

---

### 演劇で培う表現力と協働性 教授 / 西村 和宏

最初に、体と声を使った簡単なアイスブレイクをします。リラックスした後、小グループに分かれて短いシーンを創作し、発表します。こうした演劇体験やグループワークを通して、表現力や協働性、主体性を学びます。グループワークが主体の講義なので、クラス作りやアクティブラーニングの導入にも役立ちます。

---

### 即興演劇を活用した 表現する力を育てる ワークショップ 教授 / 仙石 桂子

即興演劇とは、脚本も、設定も、役も何も決まっていな中で、その場に出てきたアイデアを受け容れ合い、ふくらましながら、物語をつくり、場面を演じながらシーンをつくっていく演劇です。即興演劇の基本方針は、「自由と協調」。即興演劇を体験することで、自由な創造力と、相手と協調することを学びます。

---

### 実習における コミュニケーション技術を 活用したワークショップ 教授 / 仙石 桂子

福祉科での実習に行く前に身につけておきたいこと、行った後の課題について、コミュニケーション技術を基にロールプレイングを活用したワークショップを行います。演劇の専門家として、利用者、実習生、職員の立場に寄り添い、アドバイスをします。

---

### 動きの中で学ぶこと 教授 / 阪本 麻郁

高度に進展したITによってヴァーチャルな世界が拡大した現代に生きる若者たちに、コンテンポラリー・ダンスという生身の身体を使った芸術を通して、身体感覚やコミュニケーション能力を回復させる講義です。芸術を活用した講義を行うことで、自信が養われ、批評的な思考力や規律を重んじる姿勢が生まれます。

# お申し込み方法

下記のいずれかの方法にて、**希望実施日1ヶ月前まで**にお申し込みください。

お申し込みの際は、実施希望日を第2希望までお伝えください。

日程調整の上、後日ご担当者様にご連絡いたします。

- ・ 電話 (0120-459-433)
- ・ 申込フォーム (右の二次元コードより)
- ・ 申込書に記入して FAX (0877-63-5353)



## 高大連携支援プログラム 申込書

学校名			
ご担当者氏名・お役職	例：3年担任、進路担当など		
ご連絡先	TEL：	MAIL：	
申込プログラム	いずれかに○をつけてください。 ① 大学体験 ② 合宿* ③ PTA・教員研修 ④ 出張講義		* 特記事項に詳細をご記入ください。
参加者	※現時点で確定されていない場合、おおよその人数で構いません。 ( ) 学年 ( ) 名 / 教員 ( ) 名 / 保護者 ( ) 名		
日時	【第1希望】 月 日 ( ) : ~ 月 日 ( ) :		
	【第2希望】 月 日 ( ) : ~ 月 日 ( ) :		
希望する内容	希望するプログラムすべてに○をつけてください。 大学の概要説明 講義体験 (大学体験のみ) 施設見学 学食体験 その他 ( )		
希望する講義	※出張講義を希望される場合 第1希望 (教員名： 講義名： ) 第2希望 (教員名： 講義名： )		
送迎バスの利用	利用する ・ 利用しない (交通手段： )		
宿泊	大学内の宿泊施設を利用されますか。 はい ・ いいえ		
パンフレット等の配付	参加者に本学パンフレット等を配付することは可能でしょうか。 はい ・ いいえ		
アンケート実施	終了後、アンケートを実施することは可能でしょうか。 (個人情報の記載は任意) はい ・ いいえ		
写真撮影	本学ホームページ掲載または記録用に写真撮影することは可能でしょうか。 (顔が写らないように配慮いたします。) はい ・ いいえ		
機材使用の可否	使用可能な機材がございましたら○をつけてください。 プロジェクター・スクリーン・PC		
ご要望・特記事項 (特に見学したい施設や 体験したい講義、 使用したい機材がある場合は こちらにご記載ください。)	※合宿の方は、使用目的・使用を希望する施設をご記入ください。		

### 【お問い合わせ】

四国学院大学 入試課

〒765-8505 香川県善通寺市文京町三丁目2番1号

TEL：0120-459-433 / 0877-62-3964 (入試課直通) FAX：0877-63-5353

MAIL：info@sg-u.ac.jp